特集

協同労働による仕事おこしの歴史と展望

2009年９月６日、日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会が30周年を迎えた。その歴史は、働く者や市民が地域社会の主体者となる仕事おこしと就労機会の自発的創出の歴史であった。『歴史はいつか真実にいたる』（30周年スローガン）－働く者や市民が協同で出資し、事業経営を担い、人と地域に役立つ仕事を創り出していく新しい働き方である協同労働の協同組合が、いよいよ法制化を迎える段階に至った。

この日本社会において、労働者協同組合（ワーカーズコープ）やワーカーズ・コレクティブ、農村女性起業、障害のある人の自立・就労を支援する団体など、それぞれに30年の歴史を持ち、協同労働で働く人びとはいまや10万人、事業規模は500億円に達していると言われている。

協同労働とは何か。それはどのような歴史を経て今日に至ったのか。協同労働による仕事おこしと就労創出（就労支援）、そして「よい仕事」とはいかなるものか。これらを鮮明に示していくことが、今日、協同労働の協同組合が法制化される時代に求められている。（編集部）

日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会30周年記念レセプション